

初のチャチャカップ スポーツの秋PGで満喫

「第1回チャチャカップ・パークゴルフオープン大会」(株式会社いしこし主催、猪股研代表取締役)は10月20日、高森パークゴルフ場で開かれ、市内外から207人が参加しました。

チャチャカップは、県内外のプレーヤーの交流拡大と健康増進が目的。高森パークゴルフ場の4コース36ホールを53組に分かれてプレーし、好成績の男女それぞれ10人が表彰されました。工藤和枝さん(74)＝追町萩洗＝は「初めての大会ですが、参加者が多くて楽しいですね。天気も良く、グリーンを歩くのが気持ちいいです」と秋晴れの下でのプレーに笑顔を見せました。



チャチャカップは今回が初開催。入賞者には、地元の日本酒や高森パークゴルフ場無料回数券などが手渡されました。

アニメキャラで観光 明治村でコスプレ楽しむ

コスプレイベント「れきこす」(アニメ文化祭実行会主催、齊藤建司代表)は10月11日、教育資料館や登米懐古館など登米町域内で開かれ、44人が参加しました。

れきこすは、年2回、観光地などで参加者同士がコスプレしながら交流を楽しむイベント。今回は、新型コロナ拡大防止のため東北地方からの参加者に限定し、開催されました。福島県から参加した渡辺康孝さん(31)は「雰囲気のある建物が好きで、以前から来たいと思っていました。コスプレすることで普段とは違った気持ちになりますし、観光もできる良いイベントだと思います」と、趣ある街並みを楽しんでいました。



参加者は、アニメや漫画のコスプレに身を包み、みやぎの明治村を背景に写真を撮り合うなど、交流を楽しみました。

力と技ぶつかり合い 交流相撲大会で力士熱戦

「第1回宮城県小中学生交流相撲大会」(丸山相撲クラブ主催、柳渕利夫会長)は10月25日、道の駅米山にある登米相撲場で開かれ、県内から集まった小中学生力士が体当たりの熱戦を繰り広げました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で小中学生の相撲大会が中止。日頃の練習の成果を発揮できる場を設けたいと、丸山相撲クラブが開催しました。佐々木修一さん(72)＝米山町場＝は「一戦一戦の取組から子どもたちの一生懸命さが伝わってきます。これからも相撲を続けて、この中からプロ力士が出るとうれいすね」と選手たちの今後の活躍に期待していました。



まわし姿で白熱した相撲をとる子どもたちに、客席から大きな拍手が送られました。

渡り鳥みんなで歓迎 伊豆沼内沼でマガン観察

「渡り鳥をみんなで迎える会」(市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター、伊豆沼・内沼クラブ共催)は10月18日、追野鳥観察館で開かれ、約20人がマガンの飛び立ちを観察しました。

迎える会は、マガン飛来数のピークを前に伊豆沼・内沼の環境に触れる機会を提供したいと初めて企画。参加した渡辺利明さん(56)＝仙台市青葉区＝は「5年ほど前から夫婦で野鳥観察を楽しんでいます。この観察館は高さがあるので、360度遠くまで見渡せていいですね。マガンが一斉に飛び立つ瞬間を見ることができたので来て良かったです」と話していました。



伊豆沼・内沼は、渡り鳥の飛来地として知られ、マガンの「飛び立ち」や「ねぐら入り」は登米市の冬の風物詩になっています。

対話を通じ課題共有 県知事が地域の現状視察

「みやぎの復興現場訪問事業」(宮城県主催)は11月5日、登米市内で実施され、村井嘉浩知事が2事業所を訪問しました。

訪問事業は、震災復興に向けて取り組む企業や先進的な取り組みをしている団体を知事が視察し、意見交換を通して広く県民の意見や要望を把握するもの。当日はみやぎ登米農業協同組合胡瓜部会(久保泰宏部会長)、オサベフーズ登米工場(北村梅治代表取締役社長)を訪問。訪問先で事業概要の説明を受けた村井知事は「これからは先進的な取り組みの継続や地域への貢献をお願いしたい」と激励しました。



訪問した事業所では、事業概要や活動内容の説明後、工場内で製造工程や職員の作業の様子を視察しました。

だて正夢召し上げれ 市内幼小中で新米を提供

市内で栽培されたみやぎ米の新品種「だて正夢」の新米を10月19日から11月9日まで、市内の市立幼稚園と小中学校の給食で提供しました。

だて正夢の提供は、子どもたちに本市の農業や農産物について興味を持ってもらいたいと、市農業振興協議会が企画。提供初日の10月19日には、米山東小5年生32人が、みやぎ登米農協の職員から「登米市で作られるお米」の授業を受けた後、炊き立ての新米だて正夢を味わいました。主藤丈琉くんは「いつもの給食のごはんより甘くて、もちもちしていておいしかった。また食べたい」と感想を話しました。



新米だて正夢の提供は給食センター単位で実施。幼稚園と小中学校で1人1食分ずつ計6800食が提供されました。